

特集「セキュリティ人財と技術で目指す 信頼できる社会基盤の実現に向けて」の編集にあたって

毛利 公一^{1,a)}

2020年の東京でのオリンピックの開催に向け、社会の様々な側面における安全性と信頼性の確保が急務となっている。コンピュータ、ソフトウェア、ネットワークについても、安全性と信頼性の確保が重要なものの1つであると位置付けられている。それにともなって、今までにも増してセキュリティの重要性が声高に叫ばれるようになった。また、経済面ではビットコインに代表される仮想通貨が出現し、国家や制度ではなく情報技術に基づいた信頼によって流通するようになった。このような新たな流れの中、セキュリティ技術を支える人財の不足も指摘されており、これからの育成が期待されているところである。

安全性と信頼性の確立や維持には、ユーザの心理的な状況につけ込んでくる攻撃者に対する防御、ユーザが対策をする際の安全性や信頼性に対する負担等の心理的な状況の改善、心理学的な側面を含む攻撃に起因するインシデントの対応など、人の思考や行動によって発生する種々の事象を想定した対策や事後の対応が求められる。しかし、攻撃は日々めまぐるしく変化するため、継続的な高度セキュリティ技術の研究開発が期待される。

このような状況に対応できる人財の排出と技術の確立を目指して、本特集号「セキュリティ人財と技術で目指す信頼できる社会基盤の実現に向けて」では、社会基盤を構成するコンピュータ、ソフトウェア、ネットワークにおける新たな攻撃や情報セキュリティとプライバシーに対して人間の心理学的・行動科学的な側面など考慮した論文を広く募集した。具体的には、ヒューマンファクタに関連するセキュリティ、セキュリティに関するヒューマンインタフェース、セキュリティと関連する CSCW・協調支援、セキュリティやプライバシーとネットワークに関連するトラスト、そしてコンピュータによる協調支援やセキュリティの経済学など、広範囲なヒューマンファクタを考慮したセキュリティ・プライバシー・トラストに関する研究論文を中心に募集した。

この度、本特集号へは24件の論文が投稿された。特集号編集委員会では、情報処理学会の査読基準に従うとともに、判定、採録条件、コメントにおいては次の視点を重視

して慎重に審議を行った。

- 各企業・研究所・大学等での成果を積極的に広め、分野のさらなる発展を目指す。
 - 分野の発展を通じて、さらなる人の発展につなげる。
- その結果、英語論文1件を含む9件が採録され、採録率は37.5%であった。上述の2つの視点からもう少し高い採録率となって分野と人の発展に寄与することを目標としていたが、採録された論文はクオリティの高いものであると感じている。

最後に、この分野を支え、不断の努力をしている、論文を投稿いただいた著者およびその関係者各位に敬意を表す。査読者各位には多忙の中査読を担当いただいたこと、有益なコメントをいただいたことに深く感謝する。編集委員各位には担当論文について丁寧なケアをしていただいたこと、各論文の判定において適切なコメントをいただいたことに心から感謝する。学会事務局を始めとする学会関係各位には、限られた時間の中で適切なサポートをいただいたことに御礼を申し上げたい。そして、幹事の寺田真敏氏と斯波万恵氏には、本特集号の起案から最終報告に至るまでのすべてのフェーズにおいてご尽力いただいた。このお二人がいたからこそ、無事出版にたどり着くことができた。この場を借りて心から深く感謝申し上げます。

「セキュリティ人財と技術で目指す信頼できる社会基盤の実現に向けて」特集号編集委員会

- 編集長
毛利公一（立命館大学）
- 幹事
寺田真敏（日立製作所）
斯波万恵（東芝ソリューション）
- 編集委員
島岡政基（セコム）、猪俣敦夫（東京電機大学）、稲葉緑（電気通信大学）、上原哲太郎（立命館大学）、大坐 昂智（電気通信大学）、金岡 晃（東邦大学）、小松 文子（長崎県立大学）、五味秀仁（ヤフー）、坂本一仁（セコム）、白石善明（神戸大学）、高田哲司（電気通信

¹ 立命館大学
Ritsumeikan University
a) mouri@cs.ritsumei.ac.jp

大学), 田中健次 (電気通信大学), 田中俊昭 (KDDI 研究所), 角尾幸保 (NEC), 西垣正勝 (静岡大学), 廣田啓一 (日本電信電話), 松浦幹太 (東京大学), 村山優子 (津田塾大学), 山口高康 (NTT ドコモ), 吉浦裕 (電気通信大学)